

リレー エッセイ

テーマを投げる職員もテーマを受け取る職員も誰から何のテーマが来るのか編集委員からのオーダーがあって初めて知る本コーナー。職員が知らないあの職員の内側をのぞけると、職員間でひそかな人気です。

「最近感動したこと」(江部所長からのリレーテーマ)

こんにちは、渡邊です。私のテーマは最近感動したことですが、たくさんある中で9月4日系魚川市で行われた日本海クラシックカーレビューに行った時のことをお伝えします。

このイベントですが古くは1974年までに生産された国内外の名車が全国から200台集まり、展示・走行を見て楽しむことの出来るイベントです。

私が子どもの頃に走っていた車や父が乗っていた車を見た時、子どもの頃を思い出し、懐かしく感動しました。

また、車体の美しさや全国からエアコンのついていない

車に乗って走行してきたことに感動し驚きました。車もメンテナンスを心掛けて大切にすればいつまでも動いてくれることを改めて感じた一日でした。きら生活支援員 渡邊 秀樹



mote 出店のおしらせ☆

秋や冬にぴったりの商品たちとともにmoteが外部出店いたします。

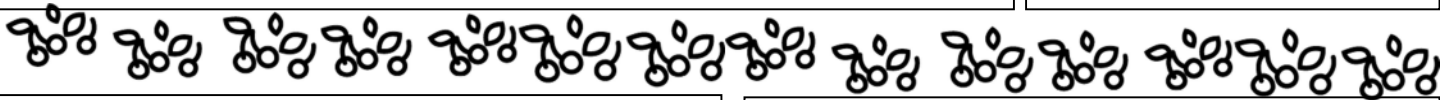
ぜひ、足をお運びください、お待ちしております(´o`)／

①マゼランペンギンクラフトフェスタ

10月30日(日) 10:00~16:00
海浜公園(上越市西本町4-17)

②サンクス高田出張販売会

10月31日(月) 10:00~16:00
サンクス高田(上越市寺町3-10-11)



「ありがとう」(大塚職員からのリレーテーマ)

おばあちゃん子の渡邊です。子どもの頃から両親が共働きで保育園の送り迎えはいつも祖母でした。お小遣いが欲しくて兄と手伝いを頑張り、いつも私たち兄弟に「ありがとうね」と笑顔で言ってくれる。祖母からは怒られた記憶が一度も無く、そのせいでいつも甘えて生意気なことばかり言ってきた私。それでもいつも味方でいてくれました。

そんな祖母は今、寝たきりです。今更「ありがとう」と伝えたくても難しい。できることと言ったら休みの日に娘と一緒に顔を見せに行くぐらい。どうしてもっと早く「ばあちゃん、ありがとう」と言えなかったのか、後悔の日々です。

人に何かしてもらって当然だと思わず、「ありがとう」と思い、素直に言える謙虚な気持ちを忘れず持ち続けたいと思います。



にご児童発達支援管理責任者
渡辺 功

「私にとって大切、大事なこと」(松田職員からのリレーテーマ)

このお題をいただいたとき、一番に浮かんだのは家族との時間です。ありきたりすぎるかなと思ったのですが、他に思いつきませんでした。私は、大学に通っている4年間一人暮らしをしていましたが、この4月に地元に戻ってきました。

帰って来て、親孝行をしたいという思いもあったのですが…もちろん今も気持ちはあるのですが…今のところ甘えっばなしです。週末になると、実家にごはんを食べに行き、お出かけや買い物に連れて行ってもらい、思う存分ダラダラし、嬉しかった話、悲しかった話、全部聞いてもらいます。

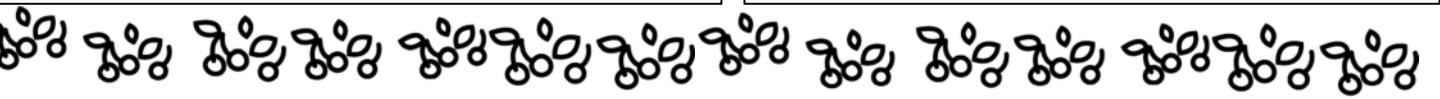
改めて自分で反省してしまうほどの甘えっぶりですが、実家でこの時間が、今の私にとってとても大切で、大事な時間になっています。

そんな甘えさせてもらってばかりの母が、温泉に行きたいとつぶやいているので、今年中に温泉旅行をプレゼントしたいです。



きら生活支援員 桂 菜穂

今回は、総務豊岡職員、にご丸山支援員につなぎます。
お楽しみに!!



発行者：社会福祉法人みんなでききる 障害福祉事業部りとるらいふ
通信に関するお問い合わせ先：事業部代表 TEL025-542-0170 (担当：金子)

りとるらいふ通信

(社福) みんなでききる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日：2016年10月

今年は、ニュースでも話題になっていますが台風が多く発生している年ですね。全国では大きな自然災害も発生していますが、先日職員2名が石橋町内の防災訓練に参加させていただきました。災害が起こらないのが一番ですが、「いざという時」の備えての準備体制や訓練、そして日頃の「顔の見える関係」が大切であることを再認識致しました。それでは、今月のりとるらいふ通信をお届けします(´o`)／



支援現場を支えるひとたち

～プロフェッショナル 仕事の流儀 りとる ver～ 第二弾:看護

は普段皆さんとお会いする機会が少ない、支援現場の裏で我々をサポートしてくださっている部門に突撃し、仕事の内容や普段思っていることをインタビューするという企画「プロフェッショナル 仕事の流儀 りとるバージョン」!! 第一弾で好評をいただき、今回は第二弾!今回ご紹介するのは看護師のお二人です。

(以下インタビュー)

編集委員 仕事の内容を教えてください。

新保看護師 主にご利用者の健康管理を行っています。バイタルチェックやご利用者が常薬で飲まれているお薬のダブルチェック、体調不良の方が出た際の対応をさせていただきます。

石塚看護師

また、月に一度ドクターに来ていただき、感染症予防等のお話を聞かせていただいています。



編集委員 仕事をしていて楽しいことや醍醐味を教えてください。

石塚看護師 ご利用者様との普段の何気ないやりとりで心が温まっています。日々の関わり中で新たな発見ができて楽しいです。

新保看護師 ご利用者様から名前を覚えていただき、呼んでいただけることもとても嬉しく思っています。

編集委員 仕事で難しさを感じることはありますか?

石塚看護師 具合が悪いときに自分の症状を訴えることが難しい方が多いため、少しの変化に気づける力が大切だなと感じています。

新保看護師 福祉の中での看護師の役割でしょうか。病院ではドクターが判断をして看護師が動くという形ですが、

福祉の現場ではそうではないですね。病院での経験が長かったために、福祉の現場が新鮮であり、かつ少し戸惑いもあります。

編集委員 仕事をしている上で大切にしていることを教えてください。

新保看護師 ご利用者様やご家族の皆様の想いを確認しながら、お手伝いできたらと思っています。

石塚看護師 連携です。看護師同士、りとるスタッフ、病院、関係施設等々、様々な人との連携を大切に日々を過ごしています。

編集委員 それでは…最後にこの質問を!あなたにとっての「プロフェッショナル」とは?

お二人 いろいろな側面から考えること。看護師(自分)だけの視点にとどまらず、ご利用者様や家族の皆様の気持ちを大切にしながらこれからも日々努力していきたいと思っています。



ご利用者様が健康に過ごせるように…と日々考えてくださ

っている看護師の皆さん。いつもありがとうございます。実際の仕事をしている姿を間近に見る機会はありません。今回新鮮な気持ちで取材させていただきました。

さて、第三弾は・・・?お楽しみに☆

きらのお仕事紹介します…～きらの活動より～



きらでは毎日通所いただいた利用者の皆様に、何らかの作業をご提供しています。きらのシンボリックなさをり織を使用した雑貨の作成、紙ち

ぎり、農耕作業、りとの家はなれの委託清掃、折込作業等々が現在の主な作業メニューです。生活介護（介護保険のサービス的な位置づけ）で作業？と思う方もいらっしゃると思いますが、きらでは一人の成人として日々の仕事を持つこと、たとえ少なくとも皆さんの1ヶ月の取り組みを工賃としてお支払いすることは、社会とのつながりを持つ経験として、とても大切なことと捉えています。その方に合った支援はどのような形か、どうしたらより上手に仕事ができるようになるのか、また工賃アップが図れるか、サービス管理責任者を中心に試行錯誤の毎日これからも続いていきます。

大盛況！ふれあいフェスタ～にこの活動より～

長い長い夏休みが終わりました。暑かったり寒かったり、落ち着かない日が続きますが、にこは元気に活動中！9月10日（土）に、にこが入っている福祉交流プラザで毎年恒例のふれあいフェスタが行われました。にこはワークショップを担当させていただき、スライム作り、スノードーム作りをしたのですが、用意した材料が午前中のうちに無くなるほどの大盛況!!にこのブースは子ども達でごった返しておりました。にこのご利用者さんもたくさんお越しいただきまして、他事業所の飲食ブースも大賑わい♪その他、ゲーム大会や、りとのバンドの演奏もありました。たくさんのお客さんに見ていただいて、大盛り上がりのうちに終わることができました♪来年はどんなイベントになるのでしょうか！今から楽しみです♪



水族館へ行こう！～らんの活動より～

9月24日（土）に

上越市立水族博物館

へ行ってきました。

館内は少し薄暗い中で

水槽がライトアップさ

れているため、とても

神秘的。水槽の中ではたくさんの魚たちが泳いでいます。

みんな水槽に顔を近づけて、じーっと魚たちを見つめています。

魚たちを見ている中で「ドリーだ！」「ニモもいる！」

とキャラクターの名前が出てくることも♪みんなで楽しく

館内を見てまわりました。中でもみんなが1番楽しみにして

いたのはとってもかわいいペンギンたち。100羽を超える

マゼランペンギンがいるのは日本では上越市立水族博物館

のみだそうです。ペンギンに餌をあげる体験ができるこのこ

とで、何人かの子どもたちが餌やり挑戦してみました♪ペ

ンギンたちがいるプールの斜め上から魚を落とすと、たくさん

のペンギンが餌を求めて寄ってきてくれ、子どもたちも大喜び！！

ステキな1日になりました☆



《御礼》タオルご寄附の報告

この度、フコク生命外野倶楽部様より県内の介護施設、障害福祉施設で活用してほしいと新品のタオルを寄贈頂きました。

ご利用者様の生活のサポートをさせて頂く、当事業部ではタオルは様々な場面で毎日フル活躍するため、大変助かります！！皆様方のご厚誼に感謝し、大切に使用させて頂きます。

フコク生命外野倶楽部様

大変ありがとうございます

ました。



「今の時代を生きる」こと。

社会福祉法人みんなでききる 副理事長 片桐公彦

たように思います。「世の中の景気が悪いから福祉だ」と周囲に奨められて福祉を学ぶという喜んでいんだかどうなんだかわからない悩ましい状況が生まれたのもこのあたりからでした。

阪神淡路大震災からの支援・復興の中でボランティアや市民の手による活動が政治を動かし、市民活動に法人格を取得することを認める「NPO法」ができました。今では一般社団法人の方が気軽に法人格を取得できるようになりましたが「ボランティア元年」といわれた1995年の阪神淡路大震災をきっかけに「市民発」の活動には、多くの人が胸を躍らせたのだと聞きました。

その後、私はとある社会福祉法人に就職して仕事をしましたが、3年ほどで退職をしていくつかの仕事を転々としてきました。たまたま縁があって上越市役所の臨時職員として勤務しているとき、これまたいろんな縁があって立ち上げた組織が「りとるらいふ」であることは何度かこのコラムでも書いてきました。（なので省略しますね）

潮目が変わったのは平成18年、障害者自立支援法のスタートでした。とてつもない規制緩和、月割りから日割りへの転換、3障害統一のサービス体系、事業参入は株式会社でもNPO法人でもOK。私たちの世代の多くは独立し、一國一城の主として社会の中で自分達の消化不良を解消するような実践を始めました。自分たちの投げたボールが不思議な遠心力を保持して遠くに飛んでいく風景を目にしてきました。熱量や重み帯びて、支えたのだと実感できるドライブ感がそこにはありました。そんな風にして私たちはある季節を繰り返しました。

自立支援法という大きな障害福祉業界のできごとから10年。制度は「障害者総合支援法」となりました。この間も国債金は膨らみ続け、介護保険や医療制度は疲労を起こしています。生活保護も増え続け、「子供の貧困」という新しい言葉が生まれました。

社会問題の内化・内向化が指摘されるようにもなりました。暴走族から校内暴力、いじめから引きこもり、摂食障害等へと徐々に社会問題が内へ内へと食い込むようになっていくというものです。それはインターネットの普及がもたらした弊害だという人もいます。一方で「手のひらにすべての世界があるスマートフォンがあるからこそ社会とつながっている人もいる」という反論もあります。どちらも正しいように思えますし、なんだかの外れているような気もします。いずれにしても今の時代は、きちんと生きるにはあまりにも複雑になりすぎて、多くのエネルギーを要するのだと思います。さらに経済的に成長が見込めない中で、更なる高みの要求にこれからの若者たちは晒されます。それを「下りのエスカレーターを必死に走って昇る」と表現した人もいました。

人びとの価値観でいえば、世界各地で宗教的な思想を巡ってテロ事件が頻発し、ハイトスピーチ的な「嫌いなものは嫌い」と明確にはっきりを白黒つける風潮が強まる今の時代に、この世界はなんと生きにくいのだろうか不安があります。

多様性を受け入れる調和を目指した世界が存在する一方で、単一民族的な価値観を大きく叫ぶ世界があります。グレーを許さずなんでもはっきり白黒つけたがる人々が自分の身近に登場する場面に出くわすと、遠い異国のできごとと自分の半径5mの範囲のできごとが実はしっかりつながっているのではないかとこの恐怖にも似た感触を覚えることがあります。

そんな今の時代に生きて、娘と風呂に入り、寝かしつけている中で冒頭の思いに駆られることが増えてきました。10年後の未来に希望はあるのか、20年後の日本はどうなのか、30年後の世界はどんな風に変貌を遂げているのか、100年後に地球は存在しているのか…娘の寝顔を見ながらそんなことを思った、雨の多い秋のはじまりでした。

7月に娘が4歳になりました。「みんなでききる」の前身である「りとるらいふ」を立ち上げ時、自分に子供ができるなんて想像していませんでした。それどころか結婚もできないだろうと思っていました。それが普通のパパになり、休みの日は高田公園に行って滑り台に乗ったり、運動会となれば壮絶なポジション争いでカメラスポットを確保したり、高熱を出せばオロオロしてしまいます。

こんな風に自分で家族を持った時に思うのは「この子が大人になった時にその時の社会や時代はどうなっているんだろう」ということです。そして自分の両親も同じようにオロオロしながらも同じようにしみりと未来を憂いていたのかと思うと不思議な気持ちになります。

今、自分がこの法人で働いていて、家族を持ちながら福祉の枠組みの中に身を置いた時、「今」という時代がどんな時代なのかとふと思うことがあります。そして自分が生まれ、育った時代はどうだったかな？と回想します。

私は1975年（昭和50年）に生まれました。今は合併して「上越市吉川区」となりましたが当時は「吉川町」という単独の町でした。そこで私は高校生まで過ごしました。私の家の近くには池が二つあって、釣りばかりしていました。今でこそ舗装道路は当たり前ですが、当時、私の家の前はまだ砂利道でした。自宅の前がきれいに舗装されたのは小学校に入ってからだったように思います。当時、私の家にはシャワーがありませんでした。親戚の家も友人の家もシャワーがありませんでしたのでそれが普通だったのだと思います。ちなみに私は両親が二人とも公務員でしたので、おそらく所得的にはごくごく一般的な水準だったのだらうと思います。

私の生まれた1975年は第二次ベビーブームが過ぎ去った最後の年でした。ヒット曲の第一位は「昭和枯れすすき」だったようです。娯楽といえばもっぱらテレビでした。それも茶の間に一台が原則です。音楽を聴くのはレコードやカセットテープでした。インターネットなんてもちろんありません。情報は本当に限られていました。新聞とテレビとラジオから流れる情報が世界のすべてでした。そうそう、そういえば週末の5時とかにはプロレス中継なんかもやっていました。今思えばそれですごいなあ。

当時の吉川町は本当に小さな町で、コミュニティが凝縮されていました。父親は郵便局員でしたので、町中の人々の名前と顔がある程度一致していました。「誰々さんの家」というと「あー、あそここの角の青い屋根の家な」とかさざざりと言っていました。変な噂話もすぐ飛び交って窮屈なところもありましたが、子どもたちは地域にまだたくさんいましたので休日は誰かが声をかけるでもなく、よく隣近所でバーベキューをしていました。周囲が暗くなってきてからの花火は本当に美しく楽しくて私たちの夏の最大の楽しみでした。子供ながらに地域の中で助け合って元気に仲良く暮らしていたように思います。

中学生になって、高校生になって自分の暮らしている町がどんな環境なのかだんだん分かってくるようになりますと、若者たちは都会に出たくなります。自分はそれほど都会へのあこがれはありませんでしたが、たまたま合格した大学が千葉県だったので、大学の4年間は千葉県千葉市で過ごすことになりました。そうはいっても大学の周辺は蓮根畑が広がって、遊ぶこともほとんどないような環境でしたが、バスと電車に乗って20分もすればバルコがあったり三越があったり、それなりの都会でした。

自分の大学時代は激動の時代でした。1995年の1月には阪神淡路大震災が発生し、続いて3月にはオウム真理教による地下鉄サリン事件がありました。

そして1990年代初頭のバブルの崩壊の後遺症で、景気はめっぽう悪く、このあたりから徐々に福祉系の学生が増えてき